

## 【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

【04】避難所の物資調達と配給

## 【教訓情報】

01. 発災直後、避難所にはわずかな食糧・物資しか届かず、配給は騒然となった。

## 【教訓情報詳述】

01) 発災直後の避難所では、避難者数に比較して届いた食料・物資の量が圧倒的に不足していた。

## 【参考文献】

【引用】神戸市内での救援物資配布状況によれば、発災当日の食糧は、1月下旬の1/5。安定するのは1月26日頃[松井豊・水田恵三・西川正之 編著『あの日避難所は 阪神・淡路大震災のリーダーたち』プレーン出版(1998/3),p.31]

>

【引用】神戸市と西宮市において1月17日から1月31日までの推定避難人員1人当たりの物資配布数の推移を示したものが図4.9.1である(毛布は累積)。これによると、地震が発生した1月17日から20日頃までの間は、避難者にとって食料、毛布とも不足気味であり、神戸市では食料、西宮市では毛布の配布数が少なかったことがわかる。このような状況に陥ったのは、十分な備蓄物資がなかったこと、義援物資の受け入れに忙殺され配布までに手が回らなかったこと、正確な避難所数や避難者数の把握が遅れたこと、物資配布のための輸送手段がなく、また、主要道路が極端に渋滞していたこと等々の要因が考えられる。[『阪神・淡路大震災調査報告書 - 平成7年兵庫県南部地震東京都調査団 -』東京都総務局災害対策部防災計画課(1995/7),p.259、265 図4.9.1]

---

## 【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

【04】避難所の物資調達と配給

## 【教訓情報】

01. 発災直後、避難所にはわずかな食糧・物資しか届かず、配給は騒然となった。

## 【教訓情報詳述】

02) 物資・食料が不足したため、配給時に混乱が起きた避難所もあった。

## 【参考文献】

【引用】(兵庫県立兵庫高校)夜、避難者一人につきパン1個を教職員が配布しようとしたが、全員に行き渡らない。配給時には混乱し、制止もままならない状況で、配給している教職員の胸ぐらをつかみ「もっともってこんかい」と怒りをぶつける避難者もいた。[『震災を生きて 記録 大震災から立ち上がる兵庫の教育』兵庫県教育委員会(1996/1),p.85]

>

【引用】(神戸市長田区の蓮池小学校)午前七時に、おにぎり千食が用意されたが、あっという間になくなった。同八時にはカンパン千二百食が配布されたが、列を作った全員には行き渡らず「不公平だ。整理券を配れ」と職員の詰め寄る住民も。[毎日新聞夕刊『飲まず食わず 募る不安』(1995/1/18),p.-]

>

【引用】(神戸市兵庫区・神戸市立兵庫大開小学校)19時半、兵庫区役所から、食パン6,000個と菓子パン3,000個が届いたので教職員が配布。避難者全員分(2,000~3,000人)には不足、騒然とする。そのとき、報道のカメラマンがフラッシュをたき、避難者に殴打される。[『震災を生きて 記録 大震災から立ち上がる兵庫の教育』兵庫県教育委員会(1996/1),p.120]

>

【引用】交通事情の混乱のために場所によっては大幅に物資の搬入が遅れ、避難所では当初大きな混乱が起きた。1000人以上の避難者がいたのにもかかわらず、17日夜までに握り飯150個、リンゴ2箱しか届かず、不足しすぎているため翌朝まで配分できなかった例。18日になってパンなどが届き、民生委員や自治会役員等に世話を頼んで配分したが絶対数が足りないためにパニックになった例。17日夜、パンなどが届き、個数は十分であると判断して校庭に並んでもらったが列がいつまでも途切れず、最後には半分にしたがついになくなり、子どもが持っていたパンを大人が奪い取って行ったり、配給していた教職員が蹴られ危険な状態になったという例など、当初の食糧配給時に大混乱になったところが多い。[『震災を生きて 記録 大震災から立ち上がる兵庫の教育』兵庫県教育委員会(1996/1),p.71]

>

【引用】(被災地市民グループインタビュー結果)避難所でたこ焼きを焼いて無料で配ったことがあったが、数に限りがあるので並んでいる人だけに配布すると言っても、中にいる家族の分も求められ、トラブルになったことがあった。物資の配布を早い者勝ちにしたり、段ボールで区画を作ったりして、大規模の避難所では混乱していたところが多かったようだ。[(財)阪神・淡路大震災記念協会『平成11年度 防災関係情報収集・活

---

**【区分】**

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

【04】避難所の物資調達と配給

**【教訓情報】**

01. 発災直後、避難所にはわずかな食糧・物資しか届かず、配給は騒然となった。

**【教訓情報詳述】**

03) 避難者全員に行き渡らないため、届いた物資の配給を見合わせた避難所もあった。

**【参考文献】**

[引用] (神戸市灘区・神戸市立烏帽子中学校)18時、おにぎり弁当150食分とリンゴ2箱が届くが、とても避難者に行き渡らないので、パニックを避けるため明朝、配ることになった。[『震災を生きて 記録 大震災から立ち上がる兵庫の教育』兵庫県教育委員会(1996/1),p.50]

> [引用] 行政機関から、1人1枚ずつわたる数になるまでは配布しないよう指示があり、切望する避難者が目の前にいながら配分出来なかったという例。食糧についても同様の指示があり、置いたまま腐らせたという報告もある。[『震災を生きて 記録 大震災から立ち上がる兵庫の教育』兵庫県教育委員会(1996/1),p.71]

---

**【区分】**

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

【04】避難所の物資調達と配給

**【教訓情報】**

01. 発災直後、避難所にはわずかな食糧・物資しか届かず、配給は騒然となった。

**【教訓情報詳述】**

04) 被害が比較的小さな地域でも混乱が発生したが、水や食料がないわけではないという周囲の状況がわかるとともに収束した。

**【参考文献】**

[引用] (伊丹市立池尻小学校)9時頃、市災対本部からパンと牛乳が届き、教職員が配布を始める。あせって前の人を押しつける人もおり、パニックになった。一人で二回並んだ人も多く、結果的に足りなくなった。この後、近くの量販店が開店していること、個人的な差し入れ等があることがわかり、混乱は少なくなってきた。[『災害と対応の記録-阪神・淡路大震災-』伊丹市(1997/3),p.107-108]

---

**【区分】**

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

【04】避難所の物資調達と配給

**【教訓情報】**

02. 避難所では配布方法の工夫、避難者等による食糧調達の工夫も行われた。

**【教訓情報詳述】**

01) できるだけ平等に配布しようと、わずかな食料を小分けして配ったり、弱者を優先にする工夫をした避難所もあった。

**【参考文献】**

[引用] (神戸市長田区・神戸市立志里池小学校)夜、区災対本部からコッペパンとゆで卵が届く。一人一人は到底行き渡らないので、元PTA会長等が中心になって数人でちぎって配布することにした。[神戸市教育委員会『阪神・淡路大震災 神戸の教育の再生と創造への歩み』(財)神戸市スポーツ教育公社(1996/1),p.140]

> [引用] (芦屋市立宮川小学校)夕方、市災対本部から19時に弁当が届くという連絡があったが、実際には

21時におにぎり1,000個が届いただけだった(避難者一人一個)。おにぎりは、運動場に設置したテントで配給し、病人(約30人)には、教職員と避難者有志が枕元に届けた。[『震災を生きて 記録 大震災から立ち上がる兵庫の教育』兵庫県教育委員会(1996/1),p.115]

> [引用] (西宮市立安井小学校)夕方、初めておにぎりの差し入れ(490個)が届いた。しかし、避難者が1,000人を超えていたので、老人と子どものみに配布する。[渥美公秀・渡邊とし「避難所の形成と展開」『阪神大震災研究1 大震災100日の軌跡』神戸新聞総合出版センター(1996/5),p.83]

---

## 【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

【04】避難所の物資調達と配給

## 【教訓情報】

02. 避難所では配布方法の工夫、避難者等による食糧調達の工夫も行われた。

## 【教訓情報詳述】

02) 避難者有志や教職員等が、自主的に、近隣の店舗等から物資を調達してきた避難所等もある。また、地域で炊き出しをして、食べ物を配ったケースもあった。

## 【参考文献】

[引用] (神戸市東灘区・神戸市立福池小学校)12時、老人会会長が近所のスーパーからパンと牛乳等をもたらる。牛乳は小分けして配ったが、全員には行き渡らない。[『震災を生きて 記録 大震災から立ち上がる兵庫の教育』兵庫県教育委員会(1996/1),p.58]

> [引用] (西宮市立大社小学校)15時、救援物資のおにぎりを避難者2人に1個、買い出ししてきたバナナを1人に1本配布する。[『震災を生きて 記録 大震災から立ち上がる兵庫の教育』兵庫県教育委員会(1996/1),p.58]

> [参考] 神戸市長田区の真野地区では、地域組織である「まちづくり協議会」が中心となり、震災当日から町内7ヶ所で炊き出しを開始した。区役所から食料を受け取ることができないと知って、独自に米を調達しての炊き出しだったとされる。この経緯については、[阪神復興支援NPO編『真野まちづくりと震災からの復興』自治体研究社(1995/6),p.64、83]などにある。

> [参考] 神戸市内A大学では、震災当日、生協職員が電気炊飯器をかき集めておにぎりを炊き出した。[城仁土・他編『心理学者がみた 阪神大震災 心のケアとボランティア』株式会社 ナカニシヤ出版(1996/2),p.20]

> [引用] (被災地市民グループインタビュー結果)商店街や市場には、ある程度水や食べ物があったので、近隣の方に無料で配ったりもした。連絡の人手や、物資を運ぶ車両もあったので、地域住民の大きな支援になったと思われる。[(財)阪神・淡路大震災記念協会『平成11年度 防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域)報告書』(2000/3),p.10]

> [引用] (被災地市民グループインタビュー結果)消防団の小屋が軽量鉄骨造で、無事だった。車庫からポンプ車を出して、商店街の会員を集めて、炊き出しをした。団に大鍋があり、訓練でも使っていた。各店も在庫を地域に提供した。警察も自衛隊も行政もなかなか来なかった。1週間くらいは見た覚えが無い。[(財)阪神・淡路大震災記念協会『平成11年度 防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域)報告書』(2000/3),p.10]

> [引用] (被災地市民グループインタビュー結果)まず、各家庭からカセットコンロを出してもらって、食事を調理した。男は寝られる場所を作るために大掃除をした。1日目は食べ物は個人で何とか入手したが、2日目は1人千円を集めてまとめて市内と大阪に買い出しに行った。市内の大型店は大変な混雑で、大阪に行ったグループのほうが先に戻ってきたくらいだった。[(財)阪神・淡路大震災記念協会『平成11年度 防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域)報告書』(2000/3),p.13]

> [引用] (被災地市民グループインタビュー結果)炊き出しは、周辺の住民の方も自然と集まってきて実施することになった。炊き出しをしながら、後々どうやっていくかということ井戸端会議のようにして話し合った。食糧確保は、周辺の民家の人も持ち寄りなどして集まってきて、継続できる方法は自然と出来ていった。炊き出しは皆が寄り合う場所を作るのも目的だった。隣近所とのコミュニケーションが大事だと感じた。[(財)阪神・淡路大震災記念協会『平成11年度 防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域)報告書』(2000/3),p.14]

> [引用] (被災地市民グループインタビュー結果)以前から地域で夜店をしており、その時に使うお好み焼き用鉄板、釜、プロパンガスなどが揃っていたので、いち早く炊き出しの体制が整った。薪も餅つきをするためのものを確保していた。[(財)阪神・淡路大震災記念協会『平成11年度 防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域)報告書』(2000/3),p.14]

---

#### 【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

【04】避難所の物資調達と配給

#### 【教訓情報】

03. 発災直後から開店したスーパーやコンビニエンスストアが活躍した。

#### 【教訓情報詳述】

01) 被災地内のスーパー、コンビニエンスストア等は、被災しながらも開店したところが少なくなかった。渋滞を避けるためオートバイ輸送を行うなどの工夫も見られた。

#### 【参考文献】

【引用】(兵庫県商工部の現地調査・電話調査によると)1月17日20時には調査対象625店のうちスーパー、コンビニエンスストア、生活協同組合など計217店舗(34.7%)の営業を確認した。[『阪神・淡路大震災誌』(財)日本消防協会(1996/3),p.154]

>

【参考】地震当日・翌日の流通業界の対応として、ダイエーおよびセブンイレブンの対応についてまとめたものが[鈴木浩二『いま東京を大地震が襲ったら 震災復興の経済学』(株)古今書院(1997/9),p.50-51]に記載されている。これによると、セブンイレブンでは物資の流通のため、地震翌日からオートバイ便の配送を開始したとされている。

>

【参考】震災当日から翌日にかけての百貨店、スーパーマーケットなど小売店、ガソリンスタンドなどの復旧状況については、[阪神・淡路大震災調査報告編集委員会『阪神・淡路大震災調査報告 都市安全システムの機能と体制』土木学会・地盤工学会・日本機械学会・日本建築学会・日本地震学会(1999/6),p.329-330]にまとめられている。

---

#### 【区分】

1. 第1期・初動対応(地震発生後初期72時間を中心として)

1-07. 緊急食糧・物資調達と配給

【04】避難所の物資調達と配給

#### 【教訓情報】

03. 発災直後から開店したスーパーやコンビニエンスストアが活躍した。

#### 【教訓情報詳述】

02) 開店した店舗には、被災者が長蛇の列を作った。多くの人に物資が行き渡るよう、一人当たりの購入量の制限などが実施された。

#### 【参考文献】

【引用】震災翌日に開店したコープこうべの状況については、[1.17神戸の教訓を伝える会『阪神・淡路大震災 被災地“神戸”の記録』ぎょうせい(1996/5),p.84]に触れている。

>

【引用】(既存アンケート調査のまとめ)明石市民の地震発生当日の行動を見ると、「食料品の確保」のため、多くの市民がスーパーや食料品店に殺到したため、品切れの店が続出した。[『平成10年度防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 報告書』国土庁防災局・(財)阪神・淡路大震災記念協会(1999/3),p.79]

>

【引用】(被災地市民グループインタビュー結果)当日朝9時30分頃に地域唯一の店舗に買い物に行くと長蛇の列ができていた。一人二点ということだったが、既に残っているのは調味料だけだった。...(中略)...2日目も店舗では2点ずつしか買えず、家族が増えた家が多い中でみんな大変だったが、「赤ちゃんがいる家庭を優先させよう。皆でゆずりあいましょう。」と大きな店舗の中で、何人かで叫んでお願いした。[(財)阪神・淡路大震災記念協会『平成11年度 防災関係情報収集・活用調査(阪神・淡路地域) 報告書』(2000/3),p.15]